

◎今年度の活動

2015 年度より IAMAS にうつり、研究体制を整えた一年だった。

研究代表をしている科研費「戦後日本におけるマス・メディア受容と現代芸術の文化学」は、論文と同時に、調査に基づくキュレーションによる発表を展開してきた。こうした研究活動のスタイルを継続できるように調整することを目的に、IAMAS で研究会を実施し、本学内外の研究に関する情報の共有をはかった。

文化庁による平成 27 年度「メディア芸術アーカイブ推進支援事業」の「IAMAS メディア表現アーカイブ・プロジェクト」(代表: 吉田茂樹)に関連して、様々な分野の有識者へのヒアリングを中心に、プロジェクトの方向性を探究した。

作品発表に関しては、音楽家との共同制作が中心となった。



《入院患者たち》2016 年 1 月 29 日京都芸術センター

◎作品発表

【展示】2015 年 5 月 16 日～6 月 21 日『マテリアライジング展』京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA。《時の声》(スコア版) 松井茂+仲井朋子。

【演奏】2015 年 9 月 5 日『House Beats - 攪拌する家 Monten Live』両国門天ホール。シニギワ (長瀧寛幸+松井茂)。

【演奏】2015 年 9 月 12 日『IAMAS SOUND ARCHIVE』岐阜県立美術館。《音声詩》詩: 松井茂、演奏: さかいれいしう。

【CD】2015 年 9 月 25 日『西川竜太の啓く現代合唱の世界』(カメラータ・トウキョウ)。合唱曲《A person has let the "Kelly" out of the bottle》作曲: 松平頼暁、詩: 松井茂。

【演奏】2015 年 10 月 12 日『男声合唱団クール・ゼフィール 第 9 回演奏会』JT アートホールアフィニス。合唱曲《A person has let the "Kelly" out of the bottle》。

【演奏】2015年10月17日『山田岳 エレクトリック・ギターソロ』両国門天ホール。《時の声》(エレクトリックギター独奏版)作曲:松平頼暁、詩:松井茂。

【演奏】2015年11月29日『女声合唱団 暁 第8回演奏会』JTアートホールアフィニス。合唱曲《A person has let the "Kelly" out of the bottle》。

【演奏】2016年1月29日『檜垣智也 アコースティック作品による 音の個展』京都芸術センター。《入院患者たち》作曲:檜垣智也、詩:松井茂 | 山本一彰、映像:七里圭。

【CD】2016年1月31日『松井茂 | 時の声』(engine books)。

#### ◎講演、その他

【モデレーター】2015年4月26日「祝祭都市」磯崎新、原武史。青山ブックセンター。

【モデレーター】2015年5月24日「幻影都市」磯崎新、福嶋亮大。青山ブックセンター。

【モデレーター】2015年4月26日「神話都市」磯崎新、池内恵。青山ブックセンター。

【モデレーター】2015年7月12日「憑依都市」磯崎新、安藤礼二。青山ブックセンター。

【ワークショップ企画】2015年7月18、19日「戦後日本におけるマス・メディア受容と現代芸術の文化学」中西博之、川崎弘二、馬定延、赤羽亨、田坂博子、伊村靖子、ケン・ヨシダ、原久子、金山智子、飯田豊。IAMAS。

【レクチャー】2015年10月14日「音楽のインターセクション」檜垣智也、川崎弘二。MEDIA SHOP (京都)。

【ギャラリートーク】2016年2月11日「ソース篇」中ザワヒデキ、山本一彰。NADiff (東京)。

【シンポジウム】2016年2月11日「恵比寿映像祭シンポジウム」乾久美子、山内朋樹。日仏会館ホール。

【ワークショップ】2016年2月14日「文化庁平成27年度メディア芸術連携促進事業 タイムベースト・メディアを用いた美術作品の修復/保存に関するモデル事業 メディアアートの生と転生——保存修復とアーカイブの諸問題を中心に」加治屋健司、久保田晃弘、畠中実、佐藤守弘。京都市立芸術大学芸術資源研究センター。

【シンポジウム】2016年2月21日「日韓シンポジウム:メディアアートのアーカイブは可能か」日比谷図書文化館。

【シンポジウム】2016年3月2日「現代アートのデジタルアーカイブ Anarchive No.6: 藤幡正樹」藤幡正樹、石田英敬、建畠哲。アンスティチュ・フランセ東京。

#### ◎テキスト

【インタビュー】「榎木野衣:現代美術をめぐる言語空間の現在——シミュレーションニズムから後美術まで」『artscape』2015年04月15日号

【インタビュー】「蓮沼執太 協働性をうながす「音楽」のかたち」『美術手帖』2015年5月号、pp.58-61

【論文】「「かいわい」に「まれびと」が出現するまで 「お祭り広場」1970年」『at プラス 25』2015年8月、pp.112-124

【書評】岩坂未佳『Beyond the Display』『読書人』2015年9月18日号

【解説】「中ザワヒデキ」「池田亮司」「宮島達男」「八谷和彦」『日本美術全集』第20巻「日本美術の現代・未来」小学館、2016年2月

【座談】桂英史+黒瀬陽平+松井茂「批判的芸術と主体をめぐる 端末市民が演じる使役と知覚」『LOOP 映像メディア学 東京藝術大学大学院映像研究科紀要』pp.134-169

【解説】「作者の指」『Masaki Fujihata』Anarchive, pp.23-26

【研究ノート】「西尾美也の場合 再読「民族誌家としてのアーティスト」」『情報科学芸術大学院大学紀要』vol.7、2016年3月、pp.105-112

◎放送

【番組制作／出演】2015年4月22日放送『ニュースの視点「なぜ、いま、高松次郎か？」』TBS ニュースバード

◎社会的活動

【委員等】文化庁メディア芸術祭選考委員

【研究費】基盤研究C「戦後日本におけるマス・メディア受容と現代芸術の文化学」（科研費 26503003）

◎学内の活動

【授業】モチーフワーク

【授業】ATP（プロジェクト）